

# 宮崎県感染症週報

## ■ 宮崎県第46週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は 844 人（定点あたり 25.7）で、前週比 115%と増加した。

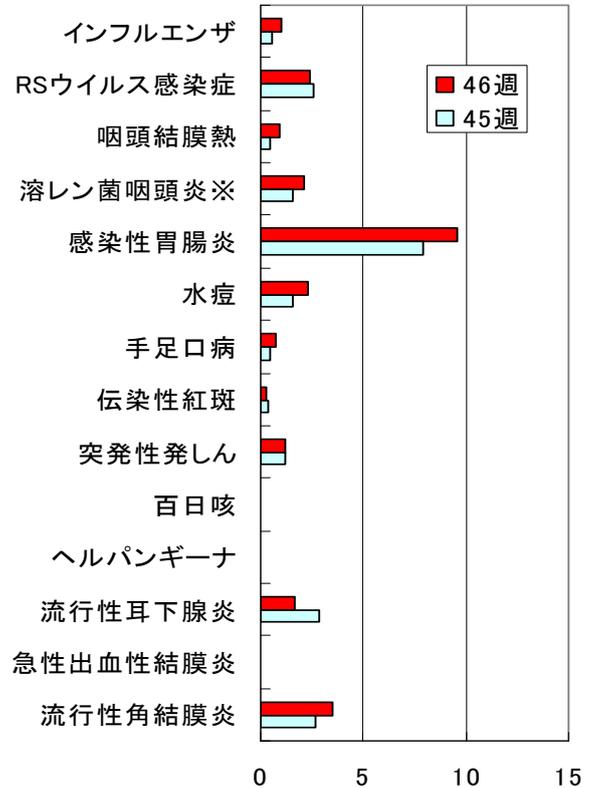
前週に比べ多かった主な疾患はインフルエンザ、水痘とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、減少した主な疾患は流行性耳下腺炎であった。

インフルエンザの報告数は 60 人（1.0）で前週比 194%と増加した。日向（8.0）保健所からの報告が多く、年齢別では 5 歳以下が全体の 67%、6 歳から 9 歳が 23%、10-14 が 5%、20-50 歳が 5% を占めた。

水痘の報告数は 82 人（2.3）で前週比 144%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（1.7）と比較すると約 1.3 倍であった。宮崎市（4.3）、都城（4.0）保健所からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 5 歳で全体の約 9 割を占めた。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は 77 人（2.1）で前週比 140%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（1.7）と比較すると約 1.3 倍であった。延岡（5.5）、日南（3.7）、宮崎市（2.2）保健所からの報告が多く、年齢別では 4 歳から 6 歳で全体の約半数を占めた。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》  
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

## □ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年齢分布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
咽頭結膜熱	3	0.92	小林(3.0)	6ヶ月～3歳で全体の約7割を占めた。
流行性耳下腺炎	6	1.6	日南(6.0)	1歳～5歳で全体の約8割を占めた。

## ■ 全数把握対象疾患

1 類感染症：報告なし。

2 類感染症：結核 16 例が日向（13 例）、都城・日南・中央（各 1 例）保健所から報告された。  
《都城保健所》・30 歳代の男性で肺結核。咳、痰がみられた。

《日南保健所》・80歳代の女性で肺結核。咳、痰、発熱、呼吸困難がみられた。

《日向保健所》同一施設から無症状病原体保有者13例が報告された。男性10例、女性3例で、40歳代が1例、50歳代が6例、60歳代が6例であった。

《中央保健所》・70歳代の男性で肺結核。咳がみられた。

3類感染症： 報告なし。

4類感染症： 日本紅斑熱1例が日南保健所から報告された。70歳代の男性で発熱、発疹がみられた。

5類感染症： 急性脳炎1例が宮崎市保健所から報告された（45週分）。12歳の男児で発熱、意識障害がみられた。

## ■ 病原体情報（衛生環境研究所 微生物部）

### □ インフルエンザ検出速報（平成22年11月15日～11月21日までに検体採取分）

同定ウイルス名	年齢	性	採取日	臨床診断名	材料	同定日
インフルエンザAH3型	1	女	11.16	インフルエンザ、41℃、鼻水、くしゃみ	咽頭ぬぐい液	11.19
インフルエンザAH3型	3	男	11.16	インフルエンザ、39℃、咳、関節痛	咽頭ぬぐい液	11.19
インフルエンザAH3型	5	女	11.19	インフルエンザ、38.5℃、咳、痰、全身倦怠感	鼻腔ぬぐい液	11.19
インフルエンザAH3型	55	女	11.19	インフルエンザ、38.8℃、咳、鼻水、嘔気、腹痛	咽頭ぬぐい液	11.24
インフルエンザAH3型	5	女	11.21	インフルエンザ、40.8℃、咳、鼻水	咽頭ぬぐい液	11.24
インフルエンザAH3型	2	女	11.21	インフルエンザ、39.5℃、咳、鼻水、頭痛	咽頭ぬぐい液	11.24
インフルエンザAH3型	2	女	11.21	インフルエンザ、38.4℃、咳、鼻水	咽頭ぬぐい液	11.24
インフルエンザAH3型	5	男	11.20	インフルエンザ、39.5℃、咳、鼻水	鼻腔ぬぐい液	11.24
インフルエンザAH3型	34	女	11.20	インフルエンザ、39.1℃、咳、痰、鼻水、咽頭痛、頭痛、関節痛、下痢	鼻腔ぬぐい液	11.24
インフルエンザAH3型	7	男	11.21	インフルエンザ、40℃、咳、関節痛	鼻腔ぬぐい液	11.24

○延岡保健所、高鍋保健所、日向保健所、宮崎市保健所管内でインフルエンザA型の報告があった。延岡の6例、高鍋の3例、日向の2例、宮崎市の1例について遺伝子検査を実施した結果、延岡の1例、日向の1例を除くすべての事例からインフルエンザAH3(A香港型)が検出された。

### □ ウイルス（平成22年11月9日～11月22日までに分離同定）

同定ウイルス名	年齢	性	採取日	臨床診断名	材料	同定日
ムンプスウイルス	4	男	11.2	無菌性髄膜炎、39℃、頸部硬直	髄液	11.18

○無菌性髄膜炎の幼児からムンプスウイルスが分離された。本県では4年ぶりの検出であった。

### □ 細菌（平成22年11月9日～11月22日までに分離同定）

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	分離材料	分離同定日
病原血清型大腸菌(O26:H11)	0～4	男	10.22	下痢	便	11.10
腸管出血性大腸菌(O115:H10 VT1)	10代後半	男	10.25	軟便	便	11.12
腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT2)	0～4	女	11.3	下痢、血便、発熱、腹痛、HUS	便	11.17
<i>Salmonella</i> Thompson(O7:k:1,5)	0～4	女	11.1		便	11.9
<i>Salmonella</i> Montevideo (O7:g,m,s:-)	5～9	女	11.6	発熱(37.4℃)、下痢	便	11.12

○ 腸管出血性大腸菌O115:H10が10代後半の患者から分離された。O115:H10は全国的にも分離報告が少ない血清型である。腸管出血性大腸菌のVT型別(VT1,VT2,VT1&VT2)は、血清型によって偏る傾向があり、過去10年間の全国の分離報告でO115:H10はVT1しか検出されていない。

## ■ 全国第 45 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 15.5 で、前週比 129%と増加した。今週増加した主な疾患は感染性胃腸炎と水痘で、減少した主な疾患はヘルパンギーナであった。

感染性胃腸炎の報告数は 23,366 人 (7.7) で、前週比 145%と増加した。例年同時期の約 1.3 倍である。大分県 (30.2)、山形県 (23.0)、新潟県 (19.5) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 4 歳で全体の約半数を占めた。

水痘の報告数は 3,842 人 (1.3) で、前週比 134%と増加した。例年同時期の約 1.3 倍である。青森県 (2.5)、徳島県 (2.3)、滋賀県 (2.2) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 5 歳で全体の約 8 割を占めた。

### □ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 298 例
- 3 類感染症 : コレラ 1 例、細菌性赤痢 2 例、腸管出血性大腸菌感染症 48 例、腸チフス 1 例
- 4 類感染症 : A型肝炎 3 例、エキノコックス症 1 例、つつが虫病 16 例、デング熱 1 例、日本紅斑熱 1 例、ライム病 1 例、レジオネラ症 14 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 11 例、ウイルス性肝炎 4 例、急性脳炎 3 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 1 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2 例、後天性免疫不全症候群 19 例、ジアルジア症 1 例、梅毒 5 例、麻しん 3 例

{お知らせ}

### 細菌性赤痢菌患者の広域散発発生について

11 月 10 日に厚労省健康局結核感染症課と医薬食安全部監視安全課は連名で各自治体宛に依頼文書を発出し、細菌性赤痢菌患者発生の初動調査に当たっては感染症担当と食品担当の部局は連携して詳細な喫食調査及び食材の遡り調査を実施するように求めた。また、同時に患者分離菌株の確保と速やかな国立感染症研究所への送付の依頼もあった。

同文書及び国立感染症研究所の病原微生物検出情報によると、本年 39 週から 42 週 (9 月 27 日～10 月 24 日) にかけて、遺伝子検査 (P F G A 及び M L V A 法) で類似の型を取る *Shigella sonnei* による本症が全国的に発生し始め次いで急増した。通常の週では *Shigella sonnei* による発生数は 3 例以下であるが 41 週には 10 例、42 週には 6 例の発生を見た。流行状況から食品を介する拡大も考えられている。

各医療機関におかれては、同症発生が疑われる場合には速やかに保健所に届け出ていただきたい。

平成 22 年 11 月 22 日

衛生環境研究所

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第46週(11月15日～11月21日)

疾病名		第45週	第46週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	31	60	1		8			3		48	
	定点あたり	0.53	1.02	0.06	0.00	1.14	0.00	0.00	0.50	0.00	8.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	94	87	9	6	35	1		15		21	
	定点あたり	2.61	2.42	0.90	1.00	8.75	0.33	0.00	3.75	0.00	5.25	0.00
咽頭結膜熱	報告数	18	33		5	7	7	9	5			
	定点あたり	0.50	0.92	0.00	0.83	1.75	2.33	3.00	1.25	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	55	77	22	5	22	11	3	7		7	
	定点あたり	1.53	2.14	2.20	0.83	5.50	3.67	1.00	1.75	0.00	1.75	0.00
感染性胃腸炎	報告数	286	343	94	53	35	26	49	41	4	35	6
	定点あたり	7.94	9.53	9.40	8.83	8.75	8.67	16.33	10.25	4.00	8.75	6.00
水痘	報告数	57	82	43	24	5			6		4	
	定点あたり	1.58	2.28	4.30	4.00	1.25	0.00	0.00	1.50	0.00	1.00	0.00
手足口病	報告数	17	26	4	9	2	5	3	2		1	
	定点あたり	0.47	0.72	0.40	1.50	0.50	1.67	1.00	0.50	0.00	0.25	0.00
伝染性紅斑	報告数	13	11	2	7			1	1			
	定点あたり	0.36	0.31	0.20	1.17	0.00	0.00	0.33	0.25	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	44	42	13	7	7	6	2	2		5	
	定点あたり	1.22	1.17	1.30	1.17	1.75	2.00	0.67	0.50	0.00	1.25	0.00
百日咳	報告数		1			1						
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	3	3	1	1						1	
	定点あたり	0.08	0.08	0.10	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	104	58	9	7	9	18	1	2		11	1
	定点あたり	2.89	1.61	0.90	1.17	2.25	6.00	0.33	0.50	0.00	2.75	1.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	16	21	18	2	1						
	定点あたり	2.67	3.50	6.00	1.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～第46週)

2類感染症	結核	198例(16)			
3類感染症	細菌性赤痢	1例	腸管出血性大腸菌感染症	51例	
	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	つつが虫病 4例
4類感染症	デング熱	1例	日本紅斑熱	6例(1)	マラリア 2例
	レジオネラ症	2例	レプトスピラ症	3例	
5類感染症	アメーバ赤痢	5例	ウイルス性肝炎	8例	急性脳炎 7例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	後天性免疫不全症候群	3例	梅毒 5例
	破傷風	5例	麻しん	1例	

( )内は今週届出分、再掲